

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル（科目名） 障がい児保育Ⅱ		授業の種類 （ 講義・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者	当該科目に関する 実務経験																																													
				柳田 真理子	保育士																																													
				鈴木 崇弘	臨床心理士 学校カウンセラー																																													
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（1 単位）	配当学年・時期 1 年・後期		必修・選択 必修																																														
[授業の目的・ねらい] ・ 障がいのある子どもの保育に関して、対象となる子どもの理解を踏まえ、家庭と連携した援助の内容について理解する。 [授業全体の内容の概要] 1. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 2. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 3. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ 障がいのある子どもやその他の特別な配慮を要する子どもとその家庭への援助・支援について自分の考えを述べることができる。																																																		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table><tr><td>1.</td><td>家庭や関係機関との連携</td><td>保護者や家族に対する理解と支援の方法</td></tr><tr><td>2.</td><td>〃</td><td>保護者間の交流や支え合いの意義とその支援</td></tr><tr><td>3.</td><td>〃</td><td>地域の専門機関との連携</td></tr><tr><td>4.</td><td>〃</td><td>子ども一人ひとりの支援計画の作成</td></tr><tr><td>5.</td><td>〃</td><td>小学校などとの連携</td></tr><tr><td>6.</td><td>障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題</td><td>保健・医療における現状と課題</td></tr><tr><td>7.</td><td>〃</td><td>福祉・教育における現状と課題</td></tr><tr><td>8.</td><td>〃</td><td>支援の場の広がりとなつながら</td></tr><tr><td>9.</td><td>エピソードから読み解く</td><td>0歳児の発達に見られる遅れ・偏り</td></tr><tr><td>10.</td><td>〃</td><td>1歳児の発達に見られる遅れ・偏り</td></tr><tr><td>11.</td><td>〃</td><td>2歳児の発達に見られる遅れ・偏り</td></tr><tr><td>12.</td><td>〃</td><td>3歳児の発達に見られる遅れ・偏り</td></tr><tr><td>13.</td><td>〃</td><td>4歳児の発達に見られる遅れ・偏り</td></tr><tr><td>14.</td><td>〃</td><td>5歳児の発達に見られる遅れ・偏り</td></tr><tr><td>15.</td><td>期末試験</td><td></td></tr></table>						1.	家庭や関係機関との連携	保護者や家族に対する理解と支援の方法	2.	〃	保護者間の交流や支え合いの意義とその支援	3.	〃	地域の専門機関との連携	4.	〃	子ども一人ひとりの支援計画の作成	5.	〃	小学校などとの連携	6.	障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題	保健・医療における現状と課題	7.	〃	福祉・教育における現状と課題	8.	〃	支援の場の広がりとなつながら	9.	エピソードから読み解く	0歳児の発達に見られる遅れ・偏り	10.	〃	1歳児の発達に見られる遅れ・偏り	11.	〃	2歳児の発達に見られる遅れ・偏り	12.	〃	3歳児の発達に見られる遅れ・偏り	13.	〃	4歳児の発達に見られる遅れ・偏り	14.	〃	5歳児の発達に見られる遅れ・偏り	15.	期末試験	
1.	家庭や関係機関との連携	保護者や家族に対する理解と支援の方法																																																
2.	〃	保護者間の交流や支え合いの意義とその支援																																																
3.	〃	地域の専門機関との連携																																																
4.	〃	子ども一人ひとりの支援計画の作成																																																
5.	〃	小学校などとの連携																																																
6.	障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題	保健・医療における現状と課題																																																
7.	〃	福祉・教育における現状と課題																																																
8.	〃	支援の場の広がりとなつながら																																																
9.	エピソードから読み解く	0歳児の発達に見られる遅れ・偏り																																																
10.	〃	1歳児の発達に見られる遅れ・偏り																																																
11.	〃	2歳児の発達に見られる遅れ・偏り																																																
12.	〃	3歳児の発達に見られる遅れ・偏り																																																
13.	〃	4歳児の発達に見られる遅れ・偏り																																																
14.	〃	5歳児の発達に見られる遅れ・偏り																																																
15.	期末試験																																																	
[使用テキスト・参考文献] ・ 障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して<第3版>（藤永保 監修／萌文書林） ・ アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育（尾野明美・小湊麻衣 著／萌文書林）																																																		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。																																																		